

自己評価結果公表シート

NO. 1
2025年度
幼保連携型認定こども園
八戸の里幼稚園

1. 本園の教育目標

[情操豊かな思いやりのある子ども] を目指しています。

- ・豊かな情緒のもと自己を十分に発揮し、自分でものを考え、何でも自分で出来、やる気十分な子ども。
- ・他の人々と親しみ、支えあい、思いやり、生きていける子ども。
- ・身近な環境に親しみ、自然と触れ合うなかで情緒豊かで観察力を身につけた子ども。

2. 本年度重点的に取り組む目標

子ども達が安心して登園できるような、また登園が待ち遠しくなるような職員の笑顔と挨拶で迎え入れを行う。

3. 評価項目と達成状況

評価結果の表示方法

- A — 達成されている
- B — ほぼ達成されている
- C — 取り組まれているが、もう少し努力が望まれる
- D — 取り組みが不十分である

① 保育の楽しみ、喜び

評価結果

1、幼児のささやかな成長を理解し、それを喜ぶことができる。また、その喜びを他の教職員とも共感することが出来ている。	A
2、例え忙しい状況でも、園児が喜びを共感しようとする気持ちをしっかりと受け止め、共に喜ぶことが出来ている。	B
3、保育準備や片付けを保育者だけで行うのではなく、園児が出来る範囲で、一緒に行うことが出来ている。	B

②幼児への対応

1、園児・保護者を含む園関係者全員に自分から挨拶をすることが出来ている。	A
2、園児の誕生日での声掛けや、些細な変化に対する声掛けなどが出来るように努めている。	B
3、全ての園児に対してスキンシップをとるように努めている。	B
4、園児に対して注意した後や叱った後などに、その園児に対して必ずフォローをすることが出来ている。	B
5、園児の見本にならないような言葉遣いや、品位の無い行動をしていない。	B

4. 総合的な評価結果

①保育の楽しみ、喜び	…	B
<p>子ども達に対して愛情を持って保育が出来ており、子どもの気持ちにも寄り添いが出来ているという結果である。ただし、業務が忙しくなると余裕が無くなり保育者本位になってしまうシーンもまれにあると考えられる。</p>		
②幼児への対応	…	B
<p>子どもに対して、積極的に声をかけてコミュニケーションが取れている。また、子ども達の嬉しいという気持ちや自己肯定感を育むような対応ができていていると考えられる。保護者に対して、挨拶は出来ているようであるが普段からの密なコミュニケーションについては、まだまだ改善の余地はあると思われる。</p>		

5. 今後取り組むべき課題

<p>社会人として求められるマナーを改めて全教職員に共通理解を求めていきたい。例えば、保育現場での振る舞いとして園として相応しくないと考え、「椅子を跨ぐ」や「廊下を小走りする」など、細かな事から一つ一つ徹底させていきたい。そうすることで個々人の意識が変わり、不適切保育の芽を摘むことができると考える。</p> <p>様々な観点から、相応しいと言う事ができるような保育者としての振る舞いを、園全体として磨いていきたい。</p>
--

6. 学校関係者の評価

<p>子ども達が楽しく幼稚園に登園している様子が伺える。愛情をもって子ども達に接してくれており、一人ひとりを良く見ていると思う。子ども自身の名前だけでなく、誕生日や兄弟の名前まで覚えて声を掛けてくれたり、日々の保育中の出来事を保護者に伝えてくれたり非常に細やかなコミュニケーションとってくれる先生がいる一方、一部の先生にはコミュニケーションに更なる改善ができる余地があるように感じるケースが時々見られる。</p> <p>また、職員の業務余白や時間的余裕をより生み出せるような取り組みを更に進めて欲しい。</p>
